

真狩村高齢者生活支援ハウス「ぬくもーる」が完成しました！




広報 まっかり

2005 No.480

かねてより建設が進められていた高齢者生活支援ハウス「ぬくもーる」がこのほど完成しました。「ぬくもーる」という名称は、2月に愛称の募集を行い、その結果選ばれたものです。(多数のご応募ありがとうございました。)

この高齢者生活支援ハウスは、単身や夫婦のみの世帯で専任において独立した生活を送ることに不安のある高齢者に対して、介護支援、居宅、交流の各機能を総合的に提供するために建設されたものです。

施設内には、居室のほかみんなで集える集客室や相談室などがあり、また日常生活を支援する生活援助員がいます。部屋は単身者向けが8世帯と夫婦向けが1世帯の合計9つの部屋が用意されています。

小さいけれど 日本一輝いている村

■発行/北海道札幌支庁真狩村
〒048-1851
北海道札幌支庁真狩村字真狩118番地
TEL 0136-45-2121(代) FAX 0136-45-3162
http://www.makkarri.info

■編集/総務課総務係
■平成17年4月10日発行

2005年4月号広報まっかり



羊蹄山真狩登山口のコース開きで、南コア山登山を楽しむ親子ら

【真狩】本格的な登山シーズンを迎え、羊蹄山(二、八九八)も、真狩村十人が参加し、羊蹄山登山口のコース開きで、親子らも登山を楽しんでいる。折り返しの後、佐々木和男村長がテープカット。待ちかねた多くの登山愛好者たちは、約一時間の登山を楽しんだ。この日は村教委主催の「羊蹄山登山」が行われ、親子らも登山を楽しんでいる。羊蹄山登山口のコース開きで、南コア山登山を楽しむ親子ら

羊蹄山 真狩コース 山開き

村建設の「同窓会」

総務課総務係は「昔は比べたことが減ったが、最低限のサービスは守ってほしい」と話している。(記者手塚道信)

2005年6月22日北海道新聞

サクラの苗木 児童にお返し

真狩の保存会

拾った実から10株に生育

【真狩】サクラの木の三、四年生十五、二十センチの苗木を、真狩村の児童に返す。昨年、村唯一のサクラ保存会(小川治会長)は五百、真狩小



拾った実から大きくなりつつある真狩小の児童

で児童が落ちた実を拾い、種を乾燥させた。保存会はその実を、世帯を回して、児童に苗木を返す。苗木は、真狩小の児童に返す。苗木は、真狩小の児童に返す。苗木は、真狩小の児童に返す。

(記者手塚道信)

2005年7月7日北海道新聞

黒柳直理さん・細川たかしさん 観光大使に委嘱されました

真狩村には馴染みの深い美容師でエッセイストの黒柳直理さんと、真狩村が生んだ歌手の細川たかしさんに、観光協会から観光大使に委嘱されました。

黒柳さんは、村の観光名所となっているフラワールードのゆり植えに参加したり、講演を行ったりと、これまでいろいろななかたちで村に関わってきました。

また、細川たかしさんについてはいうまでもありませんが、真狩村の名を全国的に広めた第一人者でもあります。お二人には、村の地域活性化のためにこれまで以上に真狩村をPRしていただきたいと思えます。



陰能観光協会会長から委嘱状を受け取る黒柳さん

2005年7月号広報まっかり

羊蹄山麓の味覚ぎっしり

らんこし米、真狩産ユリ根、留寿部の豚肉…

新しい弁当完成

商工会青年部 星沢幸子さん監修



ユリ根、ジャガイモ、トマト等、羊蹄山の味覚がぎっしり詰まった弁当が完成した。羊蹄山麓六町村の商工会青年部が連携し、テレビ番組などでの料理研究家沢幸子さんが「作り手」を募集。発売時期、価格とも未定ながら、「羊蹄地域の新たな名物」と関係者期待を寄せている。

その名も「らんこし」飯。真狩産ユリ根、留寿部産豚肉を使った「ミートローフ」、真狩産ユリ根が入った「鍋焼き、ポテトサラダ」など十品が盛り込まれた。管内の各町で弁当の試食会を開催し、関係者らから好評だった。関係者らが集まった「販売準備会」が、来年の発売に向けて準備を進めている。



星沢さんも出席した試食会



カサランカ市などでにぎわった花フェスタ

花ユリ両手、いよいよ

真狩で花フェスタ 格安販売が盛況

【真狩】夏の恒例行事「花フェスタ」が、カサランカ市などでにぎわった。真狩産のユリ根、ジャガイモ、トマト等、羊蹄山の味覚がぎっしり詰まった弁当が完成した。羊蹄山麓六町村の商工会青年部が連携し、テレビ番組などでの料理研究家沢幸子さんが「作り手」を募集。発売時期、価格とも未定ながら、「羊蹄地域の新たな名物」と関係者期待を寄せている。

2005年8月8日北海道新聞

2005年11月8日北海道新聞

1日遅れでパーティー

村内のレストラン

【真狩】村内緑岡のレストラン「マッカーリナ」で二十六日、「二日遅れのクリスマスパーティー」が開かれ、村民約八十人が楽しいひと時を過ごした。写真Ⅱ。



午前中は、菅谷伸一シ

2005年12月28日北海道新聞

て 微妙な味覚見極め



【真狩】真狩産ユリ根、留寿部産豚肉を使った「ミートローフ」、真狩産ユリ根が入った「鍋焼き、ポテトサラダ」など十品が盛り込まれた。管内の各町で弁当の試食会を開催し、関係者らから好評だった。関係者らが集まった「販売準備会」が、来年の発売に向けて準備を進めている。

真狩の「教習」

【真狩】真狩産ユリ根、留寿部産豚肉を使った「ミートローフ」、真狩産ユリ根が入った「鍋焼き、ポテトサラダ」など十品が盛り込まれた。管内の各町で弁当の試食会を開催し、関係者らから好評だった。関係者らが集まった「販売準備会」が、来年の発売に向けて準備を進めている。

2006年2月1日北海道新聞

ビスケットにチョコレート♪ランラン



菓子づくり楽しいな

真狩で親子34人が挑戦

【真狩】村教委主催の子供餅作りのほかに、村公民館調理室で行われ、親子55組が参加した。親子34組が挑戦した。

（板敷千穂通信員）

小学一年から四年までの子供が、母親の二十四人が参加。村公民館調理室を営む神野美穂さんが、アーモンドビスケットとチョコレートマリンの作り方を手伝った。

子供たちは、二人組で生地を混ぜ、型に流し込み、と慣れない作業に挑戦。そんな中、三年生の三浦菜花君は、神さんか手際の良いを、パティエとなれるよと褒められた。オリーブの設置を間違え、焦げてしまったお菓子が、出来上がったお菓子に子供たちは目を離かせて早速、試食、「おいしいの音がした。」

2006年2月22日北海道新聞

スクールガードに特製ジャンパー
子供守る緑色

真狩小

【真狩】真狩小（菊池）の児童九十二人は、子供たちを学校、地域一体になって守るシンボルとしてのスクールガードジャンパーを作製。三学期から登下校の交通指導などで活用された。

全国的に子供たちが被害に遭う事件が多し、村内でも学校や父母らは不審者等に神経をがらせている。

同校は、安全対策の一つとして学校、地域が連携して子供たちを守るスクールガード（学校安全ボランティア）の体制づくりに取り組んでいる。

その一環で作製したのがスクールガードジャンパー。遠くからも子供たちに分かるように、と



スクールガードジャンパーを着て登下校指導をする真狩小教諭

蛍光色のグリーンで、背か、父母らも積極的に中にスクールガード着用し、利用してもらおうと、真狩小と大書され、登下校や交通安全の指導、校区巡回、集団下

校時などに利用している。子供たちからは「目立ち過ぎ」の声もあるが、菊池校長は「家庭や学校、地域で学校のまきぎなを象徴するジャンパーとして」と効果を期待している。

（宇治橋元香）

2006年2月25日北海道新聞

お年寄りとアメ作り挑戦



真狩で世代間子どもたちが交流

【真狩】村教委主催のお年寄りとお年寄りとの交流活動として、村公民館調理室で行われ、親子55組が参加した。

（板敷千穂通信員）

小学一年から四年までの子供が、母親の二十四人が参加。村公民館調理室を営む神野美穂さんが、アーモンドビスケットとチョコレートマリンの作り方を手伝った。

子供たちは、二人組で生地を混ぜ、型に流し込み、と慣れない作業に挑戦。そんな中、三年生の三浦菜花君は、神さんか手際の良いを、パティエとなれるよと褒められた。オリーブの設置を間違え、焦げてしまったお菓子が、出来上がったお菓子に子供たちは目を離かせて早速、試食、「おいしいの音がした。」



真狩高女子バレー部の全道優勝を報告した、主将の佐々木さん（中央）たち

【真狩】真狩高の女子バレー部（部員九名）が、してもきき限り支援を十八日に岩見沢市で行われた全道大会で初優勝し、開校以来初めてとなる全道大会出場を決めた。部員らと声掛け、佐々木さんが十九日、村役場を訪れ、「頑張る」と笑顔で応えていた。

全道大会は八月九日から東京都で開催される。

（板敷千穂通信員）

役場を訪問したのは主将の佐々木沙織さん（三年）、大西千郷校長、監督の藤原圭教諭。大西校長が全道大会の様子を報告。決勝で強豪の別海校を2-0で破り、「力まずにプレーしたことが勝因だった」と話した。

高大会
全道
真狩女子バレー初V
全国へ、村役場に報告

2006年3月10日北海道新聞

2006年6月21日北海道新聞

